

11 管理運営計画

- 多くの市民、観光客から利用していただくための運営時間を設定します。
- 機能間連携を重視した柔軟な運営体制を構築し、効果的・効率的なサービスの提供を推進します
- 市民の力、民間の力を積極的に活用します。

(1) 開館時間及び休館日

各施設の開館時間及び休館日の考え方は、次のとおりです。なお、オープン後においても、利用状況や市民ニーズに応じて、柔軟な見直しや運用を行っていきます。

① ライブラリーセンター

- ・多様な世代、層が集えるよう、仕事終わりの利用等の市民ニーズ（アンケート調査結果）や、電車通学者が待ち時間に過ごす場所として総合的に考慮し、現在の中央図書館の開館時間を延長します。
- ・休館日については、現中央図書館は、実質休館日を設けてなく、図書館職員間の打合せ、職員研修、企画事業等の取組みの面で必ずしも十分な運営体制が取れていません。これまでの貸出中心の施設から脱却して、様々な事業を展開し、サービスの質の向上を図るため、週一回程度の休館日を設けます。
- ・図書整理期間については、ICシステムの効果的な運用を図り、現在より短縮します。

② カフェ

- ・開館時間はライブラリーセンターとの相乗効果、相性を最優先として設定し、休業日は観光客の玄関口・駅前に不足している飲食機能を補うという性格等から、観光情報センターの休業日に合わせます。

③ 観光情報センター

- ・開館時間は、他市（特に広域観光圏となる秋田市、新潟市）を参考に設定することとします。
- ・休業日についても、市の主要観光施設の休館日が元日のみの所もありますが、年末年始は観光需要が最も減少する時期であることから、本市の状況、他市を参考に、設定することとします。

- ・なお、観光情報センターが開館時間以外の来館者への対応については、ライブラリーセンターのカウンターや隣接する民間施設でも案内ができるよう連携方法を協議していきます。

④ 広場

- ・積極的な広場の活用促進（イベントへの貸出し等）を基本とし、施設間の連携、相乗効果が図られ、かつ管理上の面等から、ライブラリーセンターの開館時間等に合わせていくことを基本とします。
- ・休業日については、管理上、管理者が常時現地で立ち会う必要性が無いことや、にぎわい創出に繋げていくため、年中無休とします。

⑤ 駐車場

- ・駅及び駅周辺利用者の利便性の確保のため、他の市営駐車場、中町サントウンパーキング、酒田駅駐車場と同様、自動化により、24時間営業、年中無休を基本とします。

以上により、現在想定される開館時間及び休館日等のイメージは、次のとおりです。また、官民複合施設のメリットを活かし、例えば、公共施設の開館時間外は、民間施設一部を公共交通の待合スペースとして利用するなどの連携策を検討し、利便性の向上に努めます。

(酒田コミュニケーションポート開館時間等 検討イメージ)

施設区分	開館時間		休館・休業日
	月～土	日、祝	
ライブラリーセンター	9:00～21:00	9:00～19:00	毎週1日、図書整理期間6日以内、12/29～1/3
カフェ	9:00～21:00	9:00～19:00	12/31～1/2
観光情報センター	9:00～19:00	9:00～19:00	12/31～1/2
駐車場	24時間	24時間	年中無休
広場（イベント利用時）	9:00～21:00	9:00～19:00	年中無休

(注) 例えば、広場で朝市を開催する等もありえるので、近隣住民に配慮しつつ、開館時間の具体的な運用を今後検討していきます。

(参考：現在の施設の開館時間等)

施設区分	開館時間		休館・休業日
	月～土	日、祝	
中央図書館	9:00～19:00	9:00～17:00	図書整理期間14日以内、12/29～1/3
観光案内所	9:00～17:00	9:00～17:00	12/30～1/3

(2) 運営組織

運営組織の検討にあたっては、限られた人員や財政状況において、全体最適化を図り、利用者への最大のサービス提供を実現していくという視点が重要です。

特に、酒田駅周辺地区においては、長い間、まちの空洞化が進んでいる状況で、一刻も早期のまちの再生が求められています。酒田コミュニケーションポートだけが良ければ良いということではなく、周辺エリアを含めてのまちの活性化のための施設運営（エリアマネジメント）という視点も求められます。

今回、酒田コミュニケーションポートでは、これまでの施設機能ごとに、市組織の各所管課に振り分けるのではなく、所管課を一元化した運営組織による効果的・効率的な運営の検討を行います。

利用者、来街者にとって、窓口一本化は効果的と考えます。また、スピード感ある事業展開、意思決定や現場対応を進める上でも効果的と考えます。

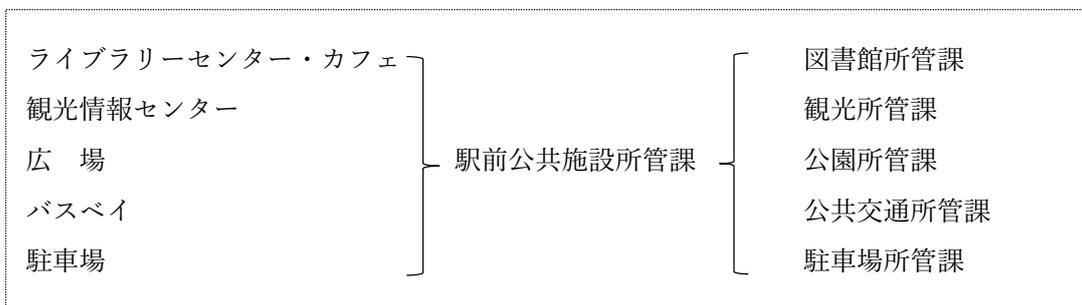
複合機能施設という特性から、一体感の醸成が大事であり、セクション主義に陥らない体制を持続的に確保していきます。

(従来型イメージ)

ライブラリーセンター・カフェ	→	図書館所管課
観光情報センター	→	観光所管課
広場	→	公園所管課
バスベイ	→	公共交通所管課
駐車場	→	駐車場所管課



(酒田コミュニケーションポート運営体制 検討イメージ)



(3) 運営形態

酒田コミュニケーションポートでは、新しい利用者の掘り起こしや新たなサービスの提供にチャレンジしていきます。多様なサービスを提供するためには、専門性の高い職員を確保し、効率性の高い運営を行う必要があります。

サービスの質を向上・維持させていくためには運営コストも増大することが予想されます。厳しい財政状況下においても、人財を支え、市民の生活・福祉の向上に資する大切な場所として50年、100年先へと受け継ぐためにも、行政だけで運営を切り盛りするのではなく、民間の運営ノウハウの導入や図書館ボランティア、観光ガイド協会などの市民団体等との協働を図り、コストパフォーマンスを向上させていきます。

(4) 事業計画及び評価

酒田コミュニケーションポートにおいては、年度ごとの事業計画を策定し、公表するものとします。

事業計画においては、運営に関する適切な指標を選定し、目標を設定します。

事業計画及び目標の達成状況に関しては、自己評価を行い、その評価については、市民公募も想定した運営評価委員会（仮称）で評価してもらい、その結果を公表するとともに次年度への計画に反映していきます。

(5) 民間施設、周辺関係機関等との連携（エリアマネジメント組織の検討）

前述(2)で述べたように、酒田コミュニケーションポートの運営だけを考えれば良いのではなく、酒田駅前地区のまちづくり、活性化も合わせて考えていかなければなりません。その中で、酒田コミュニケーションポートが牽引していく役割は大きいものがあります。

点ではなく面（エリア）でのまちづくりを進めていくため、再開発区域内の民間施設との連携組織や駅前商店街、酒田駅、地域コミュニティ等との連携組織の検討を行います。

